

# 正法寺第二十世住職 継職奉告法要 表白

敬つて大慈大悲の阿弥陀如来、教主釈迦牟尼仏、宗祖親鸞聖人、正法寺歴代住職坊守、累代の正法寺門徒に白し上げます。

本日ここに恭しく尊前を莊嚴し、有縁法中の証誠を仰ぎつつ、正法寺門信徒ならびに有縁の同朋あい寄りつどい、懇ろに聖教を誦誦して、第二十世住職継職奉告法要を勤修いたします。

## 宗祖親鸞聖人

あなたは八百年前、争いや飢饉・疫病や自然災害が多発して混迷する時代の中で、自らの苦悩から目をそらすず、人間として生きる道を一心に求め続けられました。そして、たとえ苦悩を抱えた人生であっても誰もがそのままで輝き、尊く、一切の差別を超え、共に生きていくことのできる真実の教えを顕かにしてくださいました。

その教えは南無阿弥陀仏のお念仏の声となり、時代や地域、あらゆる隔たりを超えて脈々と受け継がれてきました。私たちの先祖もその御名を聞き称え、その声を聞いて育った祖父母や両親の姿を通して、今私のもとにお念仏の教えが届けられました。

## 南無阿弥陀仏

人生に挫折し、苦悩を抱え、この身・この命をも投げ出しそうになった時。悲しみに囚われて周りが見えなくなっていた私。ふと見上げると、その前に何も言わずにただ立ち続け、見守り続けてくださった阿弥陀仏の姿がありました。

## 南無阿弥陀仏

聞こえてきた懐かしいお念仏の声。その声は私に「生きろ、生きろ」と、強く呼びかけていました。お念仏の響きは、何度も何度も立ち止まりもがき続ける私を見捨てずに包み込み、背中を支え続けていました。

## 南無阿弥陀仏

名となったその教えは、競争や比較、好き嫌いや都合を中心として生きる私の姿を写し出し、自らいのちを見失い、いのちを傷つけ、いのちに背き続けている存在であつたことを報せてくださいました。そして、その私の闇を照らす光は、比較する必要のない裸のまままで尊いいのちが今私たち一人一人の中を生きていることを教示していただいたのです。

## 善共諸衆生往生安楽国（善く諸々の人々と共に浄土へ向かい歩むことを誓う）

今ここに、鶏頭山正法寺 第二十世住職を継承することとなりました。五百有余年前から護り続けてこられた正法寺門徒の願いを訊ねながら、今を支えてくださる大切な御同行と共に、皆が共に生きることのできる同朋社会の顕現を目指し、聞法

ニ〇一九年八月二十五日

釋 勇哲 敬つて申し上げます